



富山市長 藤井裕久

## No.11 『『ローカルファースト』 という価値観』

春の陽気に誘われて家の周辺を散歩してみる。雪解けの農道法面にフキノトウが顔をのぞかせている。朝焼けの立山連峰の残雪がまぶしい。3月初旬には、水田やため池などで越冬していた白鳥の北帰行が見られ、SNSや報道を通じてホタルイカ水揚げの便りが届いた。新しい命が芽吹き、生物が活発に活動する、そんなコトやモノの一つ一つに幸せを感じ、ワクワクする季節である。つい数週間前までは道路除雪の心配をしていたのに、もう少ししたら松川べりの桜の花が満開になるのだから、これもまた「富山の四季」の幸せなのである。

話は変わるが、過日、(一財)ローカルファースト財団が主催するシンポジウム「行政と民間が連携して地域を育てていくために」に参加させていただいた。財団の資料によると、「ローカルファースト」とは、ライフスタイルの提唱、選択の基準、そして豊かさの本質を問う言葉でもあり、地域の企業が自分たちの住む「まち」の未来を考える時、いかに地域を理解しているか、まちの人、物、場所、文化などに愛情を持っているか、人々のニーズに寄り添い続けられるか、皆が真に豊かに暮らしている情景をきちんと想像できているかが

大切で、それらを導き出す価値観だということである。同財団は、ローカルファーストという理念のもと「持続可能な未来を拓き、健康で明るく豊かな社会をつくること」を目的に事業や研究・啓発活動をされている。表現こそ多少の違いがあるが、自分が目標にしている「幸せ日本一とやま」の創造に近い価値観を持った活動だと感じた。

富山には、豊かな自然と文化、独自の祭りや風土があり、各々の地域には自治会活動や町内会活動、PTA活動や体育協会の活動などが人々の繋がりを紡ぎ、消防団や地域見守り隊の活動が地域の安全や安心をつくっている。これらの環境が残っていることこそが富山の宝物であり、その幸せを未来へ繋げていくことが極めて大切だと最近つくづく思うのである。

地域の主人公は、そこで暮らす人であり企業である。人にはどんな些細なことであれ地域の一員として「地域活動に参加」することが大切である。企業には、事業を通しての社会貢献以外にも、雇用の創出や社員の暮らしの向上、地域の一員として如何に「まちづくりに貢献」するかが求められている。行政には、主役である「地域で暮らす人や企業」をサポートし、彼らが如何に生き活きと輝いて活動できるかを考え、寄り添い、共に歩いていけるかが求められている。今こそ「ローカルファースト」な価値観や生き方が大切だと思う。



学生や社会人が未来を共創し地域課題を解決

### 今月の 広報クイズ

65歳以上の方が、JR高山本線をお得に利用できる「高山本線〇〇〇おでかけきっぷ」を発売します。

〇に入る文字は？ 答「〇〇〇」

はがきかEメールで、答と郵便番号、住所、氏名、年齢、連絡先(電話番号かメールアドレス)と「広報クイズ応募」と書いて、広報課(〒930-8510 新桜町7-38)へ(1人1通)。

広報とやまに対する意見・感想もお待ちしております。

締め切り▶4月13日(水)(必着) [E]kouhou-01@city.toyama.lg.jp

賞品▶500円分の図書カード(抽選で5人)

当選発表▶賞品の発送で代えさせていただきます。

前月の答え 新富山口駅 前月の応募総数 299件(正解数295件)



### とやま情報局

今月の  
放送日 4月24日(日)11:45~

放送局 KNB北日本放送(1ch)

テーマ「令和4年度予算  
~『幸せ日本一とやま』の実現を目指して~」

ひとづくり、新型コロナ対策、スマートシティの推進、ゼロカーボンシティの実現など、今年度市が進める取り組みを紹介します。

市ホームページ(まちづくり・市政)⇒インフォメーション⇒とやま情報局